
双子の書店

イワジョー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

双子の書店

【Nコード】

N7489N

【作者名】

イワジヨ一

【あらすじ】

ある日突然親を失ってしまった双子と隣家の加奈子で送る何気ない日常・・・3人を待ち受ける過酷な運命とは・・・

僕らは二人で一つだ。お互いの事が何もかも分かる。言わば精神がシンクロしてるんだ。

そして、2体同心の僕らの何気ない日常が進んでいく・・・

僕らには親がいない。二人ともある日消えてしまった。蒸発してしまったのだ。置き手紙には、

父は「残りの人生を楽しみたいんだ。だから・・・さようなら」と。逆に

母は「なんだか自分が見えなくなってきたの。だから旅に出ます。探さないで」と。それを見た瞬間、僕らは悲しみではなく偶然というものに感心してしまった。二人して同時期に出ていくなんて・・・

先述したとおり僕らは双子で、兄である僕こと真坂拓哉と弟の真坂一樹で住んでいるのが現状だ。

16歳の夏にしてこの世の奇怪現象とも言えるものに出くわしてしまったのだ。

このような体験を目の当たりにした人など他にいるのか問うてみたくなるが、正直どうでもいいというのが二人の心情なのだ。

ところで僕らは書店を経営してる。名前は「トゥルーヒル書店」と名字を据^{もじつた}っただけであるありふれた書店だ。

蔵書数も少ないし、どちらかというと古本の方が割合の多い、古本>新書の店なのだ。

それでも利用者はそこそこいる。僕らが住む冬谷町は狭い。だから、必然として町の人たちは僕らの書店に来る。町の人たちは僕らの両親がいなくなっただけとは知らない。

いや、例外が唯一人。隣に住んでいる三桜加奈子という同じ学校に

通っている友達だ。昔から仲良しで、一緒に遊ぶこともしばしば・

・
両親が消えた旨とそれを証明する手紙を見せた時は口から緑茶を吹き出した・・・吹き出した時に鼻に緑茶が入ってしまったようで苦しそうだったのが笑えて、弟と一緒に笑ってたら鳩尾みぞおちをそれぞれ一回ずつ殴られた。お茶を吐き戻しそうになったことは秘密だ。

取り敢えず3人とも落ち着いてからこれからの方針について話し合ったが所詮高校生が3人で話し合ったところで、まともな案など出ず、おまけに僕と弟は特に困っているわけでもなく、あまり積極的ではなかったので結局そのままになってしまった。そんな訳で僕ら双子と加奈子だけの秘密になってしまったのだ。それでも、いつかは誰かが気付くだろう。その時はその時で対処すればいいさ、と思っていた。

しかし、僕らはまだ樂觀していた。これからの学校生活や日常に來たるべき運命の過酷さを・・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7489n/>

双子の書店

2010年10月9日19時39分発行